

# けいれん(ひきつけ)



お子さんの次の症状を観察し、医療機関受診の参考にしてください。

- けいれんが止まっても意識が戻らない
- 唇の色が紫色で顔色が悪い
- けいれんが5分以上続く

1つ以上  
あてはまる

救急車を呼ぶ

119番



あてはまる  
症状はない

- 意識は回復したが、手足、顔に動かせないところがある
- 発熱2日目以後にけいれんを起こした
- 初めてけいれんを起こした

1つ以上  
あてはまる

かかりつけの小児科  
休日・夜間は休日夜間診療所  
又は救急医療機関を受診しましょう

あてはまる  
症状はない

しばらく家で様子を見てみましょう  
ただし、症状が悪化した場合、変わらず続く場合は医療機関を受診しましょう

## けいれんを起こした！

### ● けいれん(ひきつけ)とは

急に身体の一部または全身をピクピク・ガクガクさせたり、意識がなくなって、目が固定して手足をグーツと突っ張ったりすることを「けいれん(ひきつけ)」と言います。

### ● けいれんに気づいたら

お子さんのけいれんに気づいたら、あわてて抱き上げたり、ゆすったり、頬を叩いたりしないで、次のことを観察しましょう。舌を噛まないようにと、口の中にもものを入れてはいけません。



①意識、呼吸の有無

②始まって(気づいて)から終わるまでの時間

③けいれんの様子(眼球の動き、四肢は固く張っているか、その様子は左と右で違うかなど)

フローチャートに当てはまる項目があるときは、医師の診察を受けましょう。けいれんを予防する坐剤があります。詳しくは、かかりつけの小児科医に相談しましょう。

### ● 熱性けいれん

6か月～6歳未満の子どもに多く見られるけいれんで、38℃以上の発熱に伴って発生します。発熱後24時間以内に起こりやすく、いわゆる良性の「熱性けいれん」は、何度起こしても、特に後遺症を残す心配はありませんが、長時間続くけいれんのときは、診察を受けましょう。